

どうとくのひろば



5年生の道徳の授業

主題名: 広い心をもって

ねらい: 【相互理解・寛容】

自分がミリエル司教の立場ならジャンの行動を許せるか、許せないかミリエル司教が許した理由を話し合う活動を通して、自分を犠牲にしてまでも相手を許すことの難しさや素晴らしさに気づき、友達の過ちや失敗を広い心で受け止めようとする心情を育てる。

教材名: 「銀のしょく台」

あらすじ: 19年間の刑期を終え、牢屋から出たものの泊まる所も食べるものも見付からず困り果てているジャン・バルジャンをミリエル司教は自分の教会に招き入れる。食事をふるまい、寝る場所を準備してあげたのにも関わらず、ジャンは司教の大切な銀の食器を盗み、逃げ出す。次の日、兵隊に捕らえられ、教会に戻ってきたジャンに対し、司教は「銀の食器はジャンにあげた物だ。」と言う。さらに、もう一つ大切なものである銀のしょく台も手渡す。

授業での具体的な様子

「今まで許せなかったことはありますか?」という事前アンケートで多くの友達が「許せなかったことがある」ということを紹介しました。そして、どんな場面で許せなかったのか全体で共有していきました。その際、許す難しさに共感しながらも、許す大切さにも触れ、許すにはどんな心が必要なのかということを考えていくことになりました。

教材文を読んだ後、ミリエル司教の立場になり、「許す・許さない」で気持ちの揺れを心の数直線にして考えました。許す人は「ジャンは家族のために行動する優しい心があるから次はしない」「ジャンの今までの環境を考えると仕方ない」、「ここで許さないとジャンは一生このままの生活だ」、許さない人は「温かい食事や寝る場所まで用意したのに裏切られた」「食器はおばから受け継いだ大切なもので、自分も大切な物を壊された経験があるから許さない」と、心の揺れも感じつつそれぞれの立場で考えました。

その後、ミリエル司教はなぜ許したのか考えました。「ジャンは次こそ正直に生きてくれると信じたから」「お金があれば優しい気持ちを取り戻し、きっとやり直すと思ったから」「次は真っ当に生きるんだ」という応援の気持ちがあったから」とミリエル司教の許した思いや広い心について深く考えました。そして、「許す」には、相手のことを信じることや相手の行動の背景まで考えることが大切だということに気付いていきました。子供たちの振り返りの一部を紹介します

- これからはその人を信じる気持ちやその人の事情などをしっかりと聞いて、許す心をもちたいと思う。
- 全てを許すことは難しいと思うけれど、これからは相手の背景までしっかりと考え、広い心を大切にしていきたい。
- 何か事情があったのだろうや次はしないだろうと友達を応援する気持ちで、許すことも考えていきたい。

一人一人が考えたことが、きっとこれからの人間関係の中で生かされていくことと思います。

----- 切り取り -----

道徳だよりへのご質問・ご感想

()年 ()組 児童名 ()

